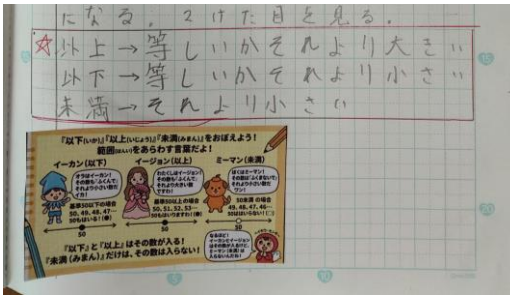
高美小学校内　TMだより

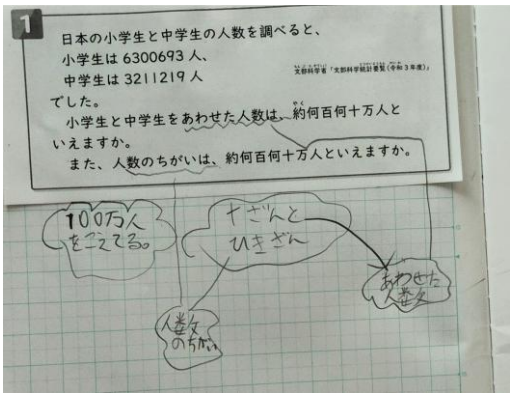
R8.11.4.NO.19

4年2組の算数の授業におじゃましました。



★課題への興味を引き出す導入★

「がい数とその計算」の学習でした。「日本の小学生と中学生は、それぞれどれくらいいると思う？」という問いが投げかけられると、子どもたちは口々に予想を話し始めました。「そんなにいるの？」という反応も見られ、自然と課題への興味が高まっている様子が見られました。以前は意欲を高めるために算数クエストのような課題を活用することもあったそうですが、今回は教科書の課題を使いながら、「課題のおもしろさ」ではなく「算数のおもしろさ」「分かるおもしろさ」を大切にして学習が進められていました。



★わざと遠回りするから見えてくること★

子どもたちはまず一人で考え、その後少人数で短時間の交流を行っていました。ふきだしを使いながら考えを書き出すことで、自分の考えを整理しながら学習を進めていました。 全体交流では、子どもたちの発言の中から「約」という言葉が取り上げられました。既習内容を振り返りながら、「今日は今までと違って計算も必要になる」という見通しをもつ姿が見られました。 また、授業ではあえて時間のかかる方法も示されていました。がい数にせずそのまま計算し、最後に答えをがい数にする方法を確認した後で、がい数にしてから計算する方法を考えていました。遠回りな方法を体験することで、「がい数にしてから計算する方が早い」「筆算をしなくてすむ」といった気づきにつながっていました。便利な方法を最初から教えるのではなく、比べながらよさを実感できるよう工夫されていました。 さらに、子どもたちの発言に対しては、「なんで？」「どういうこと？」と問い返す場面が何度も見られました。答えだけで終わらせるのではなく、その理由や考え方に目を向けることで、一人ひとりの理解を深めていました。



★安心して考えを出せる授業づくり★

授業の中では、先生がわざと「約」を書き忘れる場面も見られました。子どもたちはその間違いに気付き、「ここに『約』がいる！」と理由を説明していました。教師があえて間違いのモデルを示すことで、「間違えても大丈夫」という安心感の中で学習に取り組める環境がつくられていました。 また、子どもたちは友だちの考えを聞いたり、自分の考えを説明したりしながら学習を進めていました。正しい答えを求めるだけでなく、「なぜそうなるのか」を考え続ける姿が印象的でした。



～まとめ～

授業の中では、課題の示し方を工夫することで子どもたちを引き付けられていました。また、あえて遠回りな方法を体験したり、「約」を書き忘れた例をもとに考えたりすることで、子どもたちが自然にがい数を使うことのよさや、考え方に目を向けることができるよう工夫されていました。答えを教えるのではなく、考えるきっかけをつくることで、子どもたち自身が算数のおもしろさを実感しているようでした。学習のまとめの後には「今日もモンスターつくる？」「名前何にしようかな」という子どもたちの声も聞こえ、最後まで意欲的に取り組む姿勢が見られました。長岡先生、4年2組のみなさん、ありがとうございました。